

指針に基づく情報公開

放射線影響研究所では、個人情報保護法に基づく研究倫理指針を遵守し、この研究については、対象となる方のお一人ずつに直接説明を行い同意を得る代わりに、情報を公開することにより試料・情報を利用させていただいています。

研究成果は学会や学術誌等で発表されますが、お名前、ご住所などの情報が公表されることはありません。

ご自身または代諾者等が、試料・情報をこの研究に使用してほしくないと思われる場合、研究計画の概要をご覧になりたい場合、その他研究に関することは「問い合わせ先」へご照会ください。ご照会された場合でも、なんら不利益を受けることはありません。

研究計画書番号	RP-S4-18	研究期間	2027 年 3 月まで
研究課題名	日本人原爆被爆者における結腸がんに対する放射線リスクのメカニスティックモデリング		
研究責任者（所属）	カイザー・クリスチャン（ドイツ連邦放射線防護庁（BfS））		
放影研での研究責任者	三角宗近		
試料・情報の利用目的及び利用方法	利用目的： 放影研と BfS で研究協力を行い、結腸の発がんのための生物学に基づくリスクモデルからリスク推定値を導き出すことで、原爆被爆者コホートのがん罹患率データから放射線と発がんの生物学的なメカニズムを探る分析を行うことを目的としています。 利用方法： 現在放影研で行っている、結腸がん罹患率解析のデータ（追跡期間：1958-2009 年）を BfS と共有し、BfS で開発されたモデルによって結腸がんのリスクを解析します。		
他の機関への提供の有無	☒ 有 提供先機関名：BfS、がん登録事業実施機関 ☐ 無		
利用し、又は提供する試料・情報の項目 （提供する試料・情報の取得の方法）	現在の癌発生率解析の表形式データは放影研から提供されます。それには広島県、広島市、長崎県の地域がん登録から提供されるがん罹患情報が含まれ、提供を受ける際に氏名、性別、生年月日および住所をがん登録実施施設に提供し、個人照合のために利用します。また、国の人口動態調査から取得した死亡年月日、死亡診断書の死因情報も含まれます。表形式のデータには、性別、都市、原爆時に対象者が市内にいたか否か、原爆時年齢、追跡開始時年齢、追跡終了時年齢、追跡終了時での結腸癌発生の有無、発生している場合はその種類が含まれます。腫瘍の部位（近位、横行、遠位結腸）、組織型、悪性度、死亡診断書のみ（DCO）による登録指標もデータセットに含まれます。癌発生率データに関しては、一次原発癌の診断時を用います。喫煙の程度、アルコール摂取量、肉摂取、肥満度などの生活様式因子もデータセットに含め、線量推定方式第 1 改訂版（DS02R1）を解析に使用します。BfS へは 2018 年 12 月 1 日に性別、都市、および年齢の変数や被曝線量を		

	カテゴリにした変数で交差表として集計値にしたデータを提供しています。個人レベルのデータを提供することはありません。ドイツは個人の権利利益を保護する上で日本と同等の水準にあると認められる個人情報の保護に関する制度を有しています。
利用する者の範囲	BfS カイザー・クリスチャン エイドミュラー・マーカス 久留米大学バイオ統計センター 古川恭治 放射線影響研究所 三角宗近 杉山裕美
試料・情報の管理に責任を有する者の氏名又は名称	三角宗近（放射線影響研究所）
統括個人情報保護管理者	放射線影響研究所 業務執行理事 児玉和紀
問い合わせ先	【研究担当者】 氏名：三角宗近 公益財団法人 放射線影響研究所 統計部 住所：広島市南区比治山公園 5 番 2 号 TEL：082-261-3131